

令和2年度京都大学公共政策大学院

入学試験問題（一般選抜）

科目名：経営・会計学

この表紙の次には、以下の出題分野の試験問題が1ページに1出題分野ずつ、計3ページで3出題分野ある。

1. 経営戦略論
2. 経営管理論
3. 財務会計

3出題分野から2出題分野を選んで解答すること。

1出題分野につき、答案用紙1冊を用いて解答すること。

答案用紙ごとに、所定の欄に科目名、出題分野名を記入すること。

科目名 経営・会計学 出題分野名 経営戦略論

市場において「Winner takes all (一人勝ち)」の現象が起りやすくなっている事業環境と競争戦略の変化について、説明しなさい。

科目名 経営・会計学 出題分野名 経営管理論

以下の問題すべてに解答しなさい。

問題1 市場細分化マーケティングの枠組みである、市場細分化、標的設定、ポジショニングについて説明しなさい。その上で、行政やまちづくり、NPOにおいて市場細分化マーケティングを導入する意義や課題について論じなさい。

問題2 ブランドの機能およびブランド・エクイティの強化のための方策について説明しなさい。その上で、行政やまちづくり、NPOにおいてブランドづくりの意義や課題について論じなさい。

科目名 経営・会計学 出題分野名 財務会計

有形固定資産の減価償却に関して、以下の問題すべてに解答しなさい。

問題1 減価償却を説明した上で、その目的について説明しなさい。

問題2 期間損益計算は、キャッシュ・フローの期間配分として捉えることができる。定額法と定率法の処理方法を説明した上で、両者を比較して、キャッシュ・フローの期間配分のパターンがどのように異なるのかについて説明しなさい。

問題3 日本の現行の会計基準の下で、企業が自主的に定率法から定額法へと減価償却方法を変更する場合、どのような処理を行うのかについて説明しなさい。また、このような処理を行う理由について説明しなさい。